

京橋の印刷

7月25日1997・No.98

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 3552-1855
FAX 3297-3790

発行人 十文字 康雄



鐵砲洲稻荷神社例大祭歌舞伎座前

神輿は宮元(湊1・2丁目町会所有)
(平成8年5月4日午後3時半頃撮影)

鐵砲洲稻荷神社夏祭

副支部長 青柳晴男

鐵砲洲の地は、徳川家康入府の頃既に鐵砲の形をした南北およそ八丁の細長い川口の島であり、今の湊町や明石町の東の部分にこれに当る。寛永の頃は此処で大砲の射撃演習をしていたのでこの名が生れたとも伝えられている。隣地の入舟町、八丁堀、京橋あたりを含めた京橋地区一帯の土地生成の産土うぶまの神こそ現在の鐵砲洲稻荷神社の「生成いなりの太神」だそうだ。東京の神輿の出る祭は、五月一日の鐵砲洲の夏祭から始まり、十月で終る。その間、どこで神輿が町にくり出している。祭囃が聞えてくると、もう人々の気持は浮き浮きしてくるが、幽界の靈にせよ同様で、祭囃に目をさまし、いたたまれずにやって来る。つまり祭とは靈を招き迎え、人々が群がり集うことから始まるのである。さて、神輿を担ぐとどうなるか。神靈をいただいている神輿だけに自己陶醉をさせられ、担いでいる時は全く無我の境を行くがときと言ってもよい。町内の神輿を多勢の若い衆が肩に担ぎあげ、子供は山車を引っぱり、鉦や太鼓で町並みを練り歩く。これこそがえも言えぬお祭り気分というものであり、人々の喜びは浮き浮きと町中に充滿する。この気分こそ私が熱望してやまない祭の本質である。「お祭り」は天地の恵みや周囲の人々のお蔭で生かされていることに感謝する公のものである。「お祭り」を通して人々に感謝の気持を楽しく体験させることは精神の大きな救いと言えるのではないか。

平成 9 年度 通常総会開催

於・銀座東急ホテル

5月13日(火)18時より、銀座東急ホテルに於いて、恒例の京橋支部平成9年度通常総会が開催されました。永井副支部長の司会で、福田副支部長が開会のことばを述べて始まり、十文字支部長が執行部を代表して、次のような挨拶を行いました。「この一年、優秀なスタッフに支えられ何とかここまでやって来ました。バブル崩壊から五年が過ぎ日本経済は緩やかな回復基調にあるとはいうものの、印刷業界には実感としてそこまで行っていない。まだまだ我慢が必要と思う。その中であって昨年12月と今年2月に中央区行政側と2回に亘って、日本橋支部とともに区内の印刷業界の現況に関する懇談会を開き、地場産業振興・活性化のため予算と取ってもらい、両支部で使えないものかお願ひし、近々それは実現しそうにある。先月実施したDTP研修計画に対するアンケートの回答を分析すると支部組合員の関心は強いものがあり、DTP研修実施の機は熟していると判断され、経営者への啓蒙、営業マン向けの初歩研修、できれば実務者研修まで行いたい」と述べ、最後に「これから一年多くの事業が山積しているが、支部組合員の皆様には深いご理解とご協力をお願いしたい」とあいさつしました。

続いて議事へと移り、まず議長・副議長の選出では、京橋地区から山口順治氏、八丁堀地区



から小倉昭夫氏が選出されました。

山口議長の議事進行で第1号議案・平成8年度事業報告が榎本副支部長より報告され、大きな拍手で承認されました。

続いての第2号議案・平成8年度収支決算報告は山崎副支部長からの説明、平成8年度監査報告は宇津木監査、山内監査より監査結果報告があり、ともに拍手で承認を受けました。

第3号議案の平成9年度事業計画案は榎本副支部長より提議され、その骨子は、①本部の実施する「適正利潤確保のための経営革新研修会」(千代田・日本橋・京橋の3支部合同研修会)及び9月に実施される「電子化教育・経営者と営業マンを対象としたMacを中心としたDTP研修会」を支部事業の一環としてとらえる。②支部独自の事業として、組合活動の原点である相互扶助に基づく共存共栄を目指し、6月に中央区と連携した「Mac・DTP研修会」を

区の補助を受けテキスト代程度の低額な受講料

で、より多くの支部組合員が共有できるようにする。

③印刷業のPR・イメージアップのほか、本部との情報ネットワーク構築の一環として、インターネットの支部ホームページを開設、支部内にシステムを設置し、支部員が気楽に、自由なデジタル体験ができる環境を整える。

以上3項目が強調され満場意義なく大きな拍手で承認されました。

第4号議案・平成9年度収支予算案は山崎副支部長より三、六二二万七、八〇三円の予算計上案があり拍手で承認を受けました。

最終議案の第5号議案・次期役員選考委員の



東京都印刷工業組合京橋支部通常総会

選任については十文字支部長より支部規約第4章第12条に基づき部長会の議を経て次の11名の方々が選出され、満陽一致で承認されました。

(以下敬称略)

- 支部顧問 石澤印刷(株) 石澤 幸
- 同 小宮山印刷(株) 小宮山敬之
- 同 (株)小葉印刷所 小葉 忠昭
- 同 高千穂印刷(株) 小山 英美
- 同 (株)久栄社 田島 一弥
- 支部相談役 神林印刷(株) 神林 克明
- 同 誠文社印刷(株) 荒川 龍治
- 常務理事 (株)デイグ 篠倉 正信
- 支部長 三雄舎印刷(株) 十文字康雄
- 副支部長 (株)榎本印刷所 榎本 則義
- 地区長 (株)京屋 児玉昭太郎

以上第1号議案から第5議案まで議長・副議長のスミーズな進行により審議は無事終了しました。

この後、平成6・7年度の本部特別委員として活躍され、支部事業運営にも多大な協力をされて特別委員を退任された(株)一九堂印刷所の岩



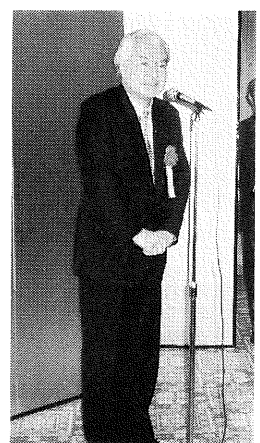
尾純一殿に十文字支部長から感謝状と記念品の贈呈がありました。

引続き来賓あいさつがあり、東印工組副理事長田島一弥殿からは「立派な事業の遂行と黒字決算に敬意を表します」とあいさつされ、平林智司中央区工団連会長のあいさつでは「一丸となって中央区産業・文化を発展させていきたい」と述べられました。

閉会のことは山内監査が述べ、平成9年通常総会は恙がなく終了しました。

引続き別室で懇親会が開かれ、青柳副支部長の司会でまづ、十文字支部長があいさつを述べたあと、公務の都合で遅れて出席の矢田美英中央区長が「日頃の区政への協力に感謝します」とあいさつ、続いて石澤幸支部顧問が支部組合員の今後益々の発展を願って乾杯の音頭をとり、一同声高らかに乾杯しました。

懇談に入り、本日来賓として参加の東印工組日本橋支部の石川保夫支部長が紹介され挨拶を述べ、宴もたけなわとなりました。中締めは篠倉正信本部常務理事が行い8時半過ぎお開きとなりました。



災害時の対策支援で区と協定

「フォークリフト提供支援」

中央区と区内印刷・製本業界の四団体（東印工組京橋支部、日本橋支部、東製工組京橋支部・日本橋支部）は「災害時における応急対策活動支援に関する協定」を締結した。

この協定は区内で災害が発生、あるいは発生する恐れがある場合に、①フォークリフト等の作業資機材、操作員等の提供②緊急人命救助活動のための障害物除去作業、応援物資・調達物資の運搬作業へ協力を行う。というものです。

調印は5月16日(金)午前9時30分、中央区役所区長応接室において、矢田美英区長と4支部長との間で行われた。

現在、印刷組合両支部は292事業所、製本組合両支部は132事業所があり、計41台（印刷19台、製本22台）のナンバー付きフォークリフトを所有している。

〔災害時における応急対策活動支援に関する協定書〕

東京都中央区（以下「甲」という。）と東京都印刷（製本）工業組合京橋支部及び日本橋支部（以下「乙」という。）は、中央区の区域内に災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、応急対策活動のための小型特殊仕様型（ナンバープレート付）フォークリフト等

作業資材、操作員等（以下「作業用資機材等」という。）を確保するため、次のとおり協定を締結する。〔注・実際の協定書は、印刷、製本両組合別に2種類ある。内容は同一のもの〕

（総則）

第1条 2の協定は、東京都中央区地域防災計画に基づき、甲が行う災害応急対策活動に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

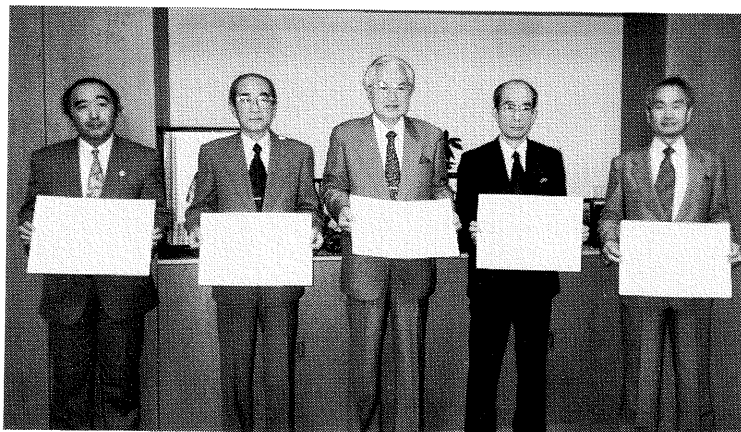


（要請手続）

第2条 甲は、乙に作業用資機材等の提供を要請するときは、日時、場所等の必要な事項を指示するものとする。

（協力内容）

第3条 乙の行う協力は、災害時における建物その他の工作物の崩壊時に伴う緊急人命救助活動のための障害物除去作業並びに救援物資、調達物資等の運搬作業（以下「業務」という。）



とする。

(業務)

第 4 条 乙は、甲の出動要請があったときは、作業用資機材等を指定された場所に提供し、区職員の指示により、業務を行うものとする。

(業務完了報告)

第 5 条 乙は、業務が完了したときは、直ちに甲に報告するものとする。

(実費請求及び支払)

第 6 条 乙は、甲の出動要請により要した業務実費を甲に請求し、甲は、請求内容を精査して、速やかにその費用を支払うものとする。

(災害補償)

第 7 条 甲は、乙が甲の要請に基づく業務に従事したことにより死亡し、負傷し、もしくは疾病にかかり、又は障害の状態になったときは、災害に際し応急措置の業務等に従事した者に係る損害補償に関する条例(昭和 38 年 3 月東京都中央区条例第 15 号)に基づき、これを補償するものとする。

(提供可能な作業用資機材等の報告)

第 8 条 乙は、この協定の締結に当り、災害時に提供可能な作業用資機材等を年 1 回甲に報告するものとする。

(協議)

第 9 条 この協定に定めない事項及びこの協定の解釈について疑義が生じたときは、甲乙が協議の上決定するものとする。

京橋・日本橋・千代田三支部合同

「利益増進のための経営革新研修会」

「危機突破のために今印刷会社と経営者には何が必要か」

東印工組特別顧問 杉田 寿夫氏

平成九年六月十二日午後六時

千代田マシナリー

〈講演骨子〉

昨年来組合本部で利益管理のためのツールをいろいろ作って配布したが未だ充分に活用されてると思えないので啓蒙のために順次都内で研修会をやることになった。

よく組合に加入しても何のメリットもないという声を聞くが、ただ加入しているだけではメリットを享受できないのは当然で、積極的に係わり活用して初めてプラスになる。組合は素材の提供はその素材を経営者が活用して行動を起こさないと何のメリットにもならない。

資本主義社会における私企業である以上、資本を投下しておりそれに見合った利益を確保出来ないといふ企業は危うい。

経営の根幹は利益管理に在り、そのために会社組織の確立、経営方針の策定をし、初めて計数管理が可能になり利益目標から売上目標が設定され、その目標に向かって日々の企業活動が開始される。

目標利益を達成する手段として
一、受注量の確保二、受注単価の改善三、コ

スト低減が大きな三要素である。

一、受注量の確保

利益確保の第一は何といっても受注量の確保、すなわち売上の確保である。量を確保して価格競争に巻き込まれないためには、差別化、提案営業が有効な手段になるが、提案営業の決め手は印刷会社にとっての付価値の高い印刷物を提案することである。小企業といって諦めず、小規模ほど成長の可能性を秘めているのであるから意欲をもって取り組んでもらいたい。

二、受注単価の改善

資本主義社会における企業成長に不可欠なのは経営者のやる気である。

三、コスト(変動費・固定費)の低減

原価管理はいくら掛かったかではなく、いかに低く抑えるかが課題であり、責任者を決めて管理させるとよい。

変動費の多くは材料費と外注費である。

外注の理由によって外注価格も左右される。

- 1、自社で加工不能な工程の外注
- 2、繁忙期における納期短縮のための手段
- 3、外注差益確保のための外注

とそれぞれ形態で外注先との力関係に差異があり、外注単価にも影響する。一般に外注は部門毎に発注するより生産部門で全社分を一括管理した方が有効である。

材料費は当然単価の見直しと使用量の低減が必要であり、予備率の見直しも必要であろう。



固定費の多くは人件費で、昨今はリストラという人減らしや職能給等の採用による賃金体系の見直しが一般化しているが、印刷業にはあまり人事のエキスパートが育っていない、今後ますます重要な部門になるであろう。

見積計算において、デザインやソフト部門の価値については時間に換算できないため大変曖昧なところである。ハタタリ値段ともいわれている。

パソコンのソフトは、一般の会社の業務をこ

なす程度のものは高価な専用ソフトを買わなくても表計算ソフトを使って自社で作ることができる。従来の印刷だけでは生き残れないと、周辺部門へ進出したり、全く新しい分野へ進出しようとする業転換をはかるのもいいが、大手は膨大な資金を投入してくるのでそれなりの覚悟が必要であり、またオーナーの個人資産を投入するのでなく、しっかりと事業計画を立てあくまで会社として資金調達できるようにしたい。また当然のことのように、後継者の育成も重要課題である。

別途「個別経営相談申込書」なるものが配布されたが、この業界はマニュアル通りには行かないところが多く、個別の仕事、個々の得意先個々の会社によって個別に対応せざるを得ないであろう。これについての問い合わせは東京都印刷工業組合業務課鴨井氏へして下さい。

銀座地区区長 児 玉 昭太郎

京橋支部Mac・DTP集中講座 デジタル受注時代に対応して

Macが業界に登場して10年とすこし、めまぐるしいまでのスピードで多機能・高品質に進展するプリプレスのデジタル化は、企業規模の大小を問わず、全ての印刷業者を巻き込んだ大きな流れとなり、21世紀のマルチメディア社会へと広がります。マルチメディアの一環である

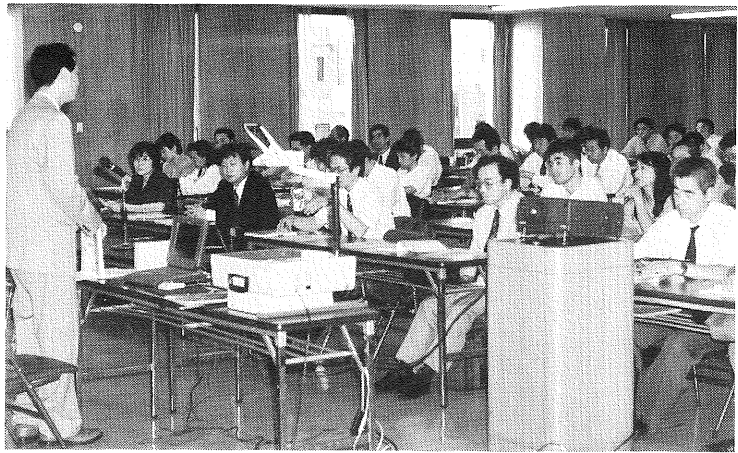
インターネットが燎原の火の如き勢いを得たのもここ僅か一年あまりのことでした。こうした流れにのり、今後大きく飛躍してゆくためには設備投資・人材育成等々我々もタイミング良く適切な対応をしてゆかねばなりません。

社会のデジタル環境の日常化にともない印刷界にとりいま最も大切なことは経営者の意識改革は勿論ですが、第一線営業マンのDTP対応力（技術的ノウハウ・対顧客折衝力・価額設定等々）の強化がなにより求められています。そんな視点から幅広く支部の皆様のご希望に沿えるよう、経営者と営業マンを対象としたMac・DTPの集中講座を開催いたしました。

ちょうど一年前にデジタル見学会と講演会を実施したところ、たいへん大勢の支部員の参加があり、この問題に対する皆様の関心の深さから執行部といたしましてもフォロアップの必要性を痛感しておりました。そんな折、中央区から地場産業振興策のアプローチがあり、予算化が実現したことから、日本橋支部とタイアップして一気にこの研修会の企画が進展した訳です。

研修会の大要は別記の通りで、講座は日本印刷技術協会に依頼しました。その内容の骨子は経営者対象としては現状認識と啓蒙を、営業マン対象としてはDTP・コンピュータの基本用語解説と制作工程の流れやDTPデータの受注時の必要知識など、基本知識から実技講座にいたる4講座8日間の研修会となりました。

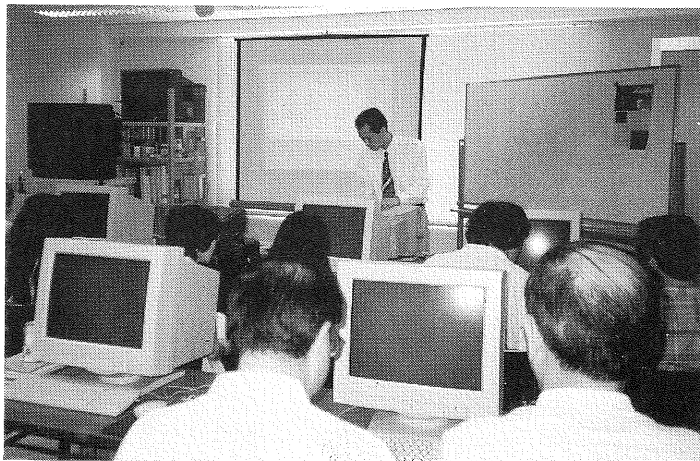
支部行事としては、これだけ多日数に及ぶ研



修会初めての試みであっただけに、どれだけの参加を得られるか正直なところ不安もありました。しかし結果は支部員の要望に即したタイムリーな企画であるとの評価を頂き、予定を大幅に上回る受講申し込みとなり、機器台数に制限のある実技講座では一部お断りをする盛況となりました。

この研修会の結果検討と今後の方針について

はこれからのことになります。講座内容はもとより一講座あたりの最適人数や会場設営など多々あります。ただ今言えることは、多忙なか業務終了後遅くまで各社の社員の皆さんが熱心に受講を重ねる姿勢に、今後の支部事業の方向を見出し出したことです。さいわい区の行政サイドでも今研修会の意義を評価し今後も積極姿勢を示していることから、これを機会にさらに内容を充実させた企画を検討してゆきたいと考えております。



経営者と営業マンを主体とした初歩からの Mac・DTP集中研修会

- 主催…中央区
- 主管…東印工組京橋支部・東印工組日本橋支部

Aコース 経営者講座 —〈環境認識〉

「印刷業界にも押し寄せるメディア革命の波」

日時…6月17日(火) 13:00~16:00
場 所…中央区役所8階大会議室

受講者…63名

Bコース 営業マン講座(1) —〈DTP入門編〉

「これだけは知っておきたいDTP基礎知識」

日時(イ)…6月24日(火) 18:00~20:30
日時(ロ)…6月26日(木) 18:00~20:30

場 所…中央区役所8階大会議室

受講者…176名

Cコース 営業マン講座(2) —〈DTP受発注知識〉

「トラブル回避のための受発注時のチェックポイント」

日時(イ)…6月30日(月) 18:00~20:30
日時(ロ)…7月2日(水) 18:00~20:30

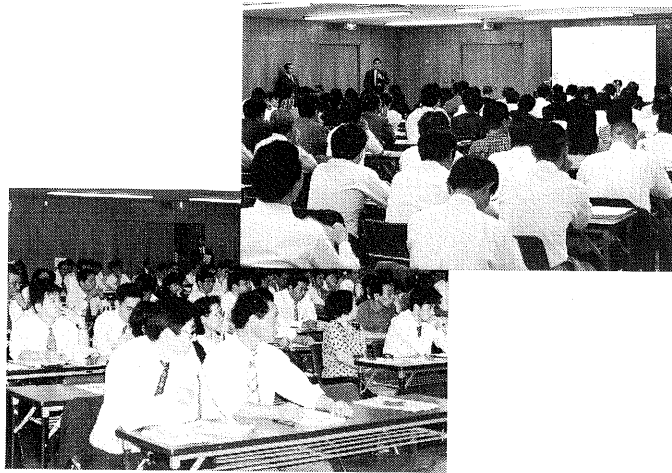
場 所…中央区役所8階大会議室

受講者…161名

Dコース DTP実技講座 —〈DTP実習体験〉

「やさしいカンパ作成」

日時(イ)…7月5日(土) 10:00~17:00
日時(ロ)…7月19日(土) 10:00~17:00
日時(ハ)…8月2日(土) 10:00~17:00

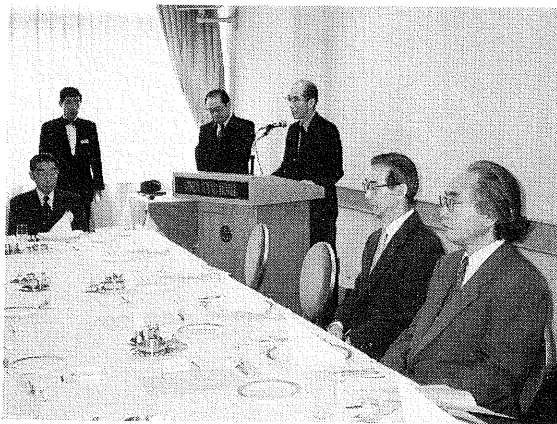


場 所…(株)日本印刷技術協会
 杉並区和田1-29-11
 受講人数…16人/回
 (Mac2人で1台使用)
 受講者…16名×3回

“長寿者の集い”

6月16日(金)
 於・銀座東急ホテル

2年に1回開催される京橋支部の「長寿者の集い」が6月16日(金)、銀座東急ホテル2階「須摩の間」で開催されました。
 この日、70歳以上の現旧事業主は当支部全体で57名を数え、その内18名の方々が出席しました。
 定刻(正午)の10分前から出席者全員での記念撮影があり、会は正午より山内監査の司会で始まりました。



先づ、十文字支部長があいさつを行い、長寿者の方への寿ぎのことば、又来賓の方への出席の御礼を述べたあと、支部の現況、とりわけ印刷業界には電子化の波が押し寄せて来ている中の対応など、現在行っている支部事業の説明



がありました。
 来賓祝辞では中央区長・矢田美英殿、中央区工団連会長・平林智司殿がお祝いの言葉を述べ、来賓紹介では中央厚生事業協組理事長・川崎哲雄殿、中央区商工課長・斎藤裕文殿が紹介されました。
 長寿者代表あいさつでは支部顧問石澤幸氏が御礼の言葉を述べ、続いて「生涯現役」を地で行く新富地区の小林晃氏の乾杯の音頭で祝杯を

挙げ、長寿を寿ぎました。

会食をしながらの歓談は、同年代の集いでなければ醸し出せない和やかな雰囲気の中で進み、先に来賓紹介のあった川崎哲雄殿、斎藤裕文殿もお祝いの言葉を述べ、長寿者からは斎藤喜徳、長崎義信、長田光夫の各氏と今回より参加有資格者となった小山英美、室田利一両氏が山内司会からの指名で各々会にふさわしいお話しをされました。

この後、余興に移り先づ平林会長がご得意の浪曲三題を吟じ、支部参与の佐藤勝男様が「相撲甚句」を朗朗と披露し会は盛り上りました。

最後に永井直保様の音頭により万歳三唱を行い、お開きとなりました。

(横田)



地区だより

入船地区 研修旅行

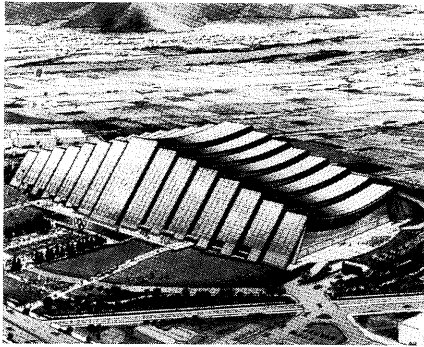
平成九年度京橋支部通常総会(当入船地区14社出席)も五月十三日支部員多勢出席のもとに行われ、いよいよ本年度の活動も始まりました。今年度は、近年になく電子化教育事業に東京都の助成を受けた。本部事業と支部事業の中央区主催による電子化教育研修会が六月十二日より今秋まで予定されている中で、五月二十四日、二十五日と当入船地区懇親会では一九九八年開催予定の長野オリンピック会場視察旅行を観光バスを使って行なった。

小葉印刷前を定刻の八時三十分出発、参加者二十名、関越自動車道を快適に進み、新設の上信越自動車道も快く進むが、横川サーピスエリアを越えたころにより、道巾が狭くなり、一車線通行となり渋滞がはじまる。

道巾は、二車線になったり又、一車線にとくりかえす。来年のオリンピックの時の混雑が見えるようで「車はダメだなあー!!」との声があちら、こちらで聞えた。車は、長野インターを越えると、左側に「ホワイトリング」^①が緑一面の中にボツリと異様にめだつ。須坂長野東インターで高速を下りたバスは、すぐ渋滞に巻き込まれる。道路は一本のみ、やがて左側に「エムウェーブ」が巨大なミノムシのように見える。見学は、後程との事で前を通り過ぎ十三時三十

分予定より一時間遅れで、善光寺に着き昼食は、信州手打そばを賞味する。さすがに本場の味だ。
長野市内は、善光寺ご開帳期間のためか、市内全て交通マヒ、オリンピックは、どうするのとの感じです。

時間の関係で、残念ながら「ホワイトリング」はバス「エムウエーブ」を見学する。この会場は、信州の山並みを連想した吊り屋根方式が特徴で M 字型が波のように連続していることから、愛称は「エムウエーブ」となったそうです。自然採光を取り入れ、木造吊り屋根では、世界最大級の規模を持つこの建物は、長さ二百三十メートル、幅百六十メートルありオリンピック大会時には、スピードスケート会場として、パラリンピック大会時には、開閉会式場アイススケルジスピードレース会場として使用されるそうです。収容の人数一万人との事。



長野オリンピックエムウェーブ



バスは、競技会場をあとに、一路宿泊先である別所温泉へむかう。玉屋旅館に着いたのは六時でした。翌朝、同温泉で有名な北向観音、安楽時の国宝八角三重の塔、常楽寺の石造り多宝塔を見学、鎌倉時代の建築物を見ながら、当時を偲ぶ。
十一時にバスは出発し、前山寺を見学のあと帰途に着く、十六時無事入船着、皆さんご苦労さまでした”

教訓

- ① 来年長野オリンピック見学に行く方は車では行かないで J R を使う、駅からはシャトルバスを使う!!
- ② 最寄りの駅からは、最悪の事を考えて、雪路を歩ける靴をはいて行く。(各競技場は歩けない事はない)
- ③ 足に自信の無い方は、行かないで、自宅でビールを飲みながら、テレビをみる。と申します私も四年に一度のオリンピック、日本で見られるのですから行く予定です。
”さ：明日から足でもキタエルか!!”

(入船地区 小沢勤)

(注)「ホワイトリング」

善光寺平にきらめく「みずたま」のような丸みを帯びた外観は華やかさと、優しさを表現しています。白く円形の競技場の愛称は「ホワイトリング」オリンピック大会時には隣接するサブアリーナとあわせてフィギュアスケート及びショートトラックスピードスケート会場として使用される予定

築地地区の小旅行

築地地区では、年一回の旅行会を楽しみにしている。平成八年度は、昨秋、大日本インキの工場見学と四方温泉の旅行に良き思い出を残すことが出来た。年が明けて、平成九年、若干予算に余裕があり、三月に小旅行を企画した。この不況下で一事業年度に二回も旅行に行けると

はちよつと贅沢な話である。一月早々に J R の観光グループで安いパック旅行の企画ありと知って、伊豆稲取温泉へ行こうということになった。旅費共で一泊一人三万円也、宿は上級格の「西も東も銀水荘」のキッチフレーズで有名なホテル稲取銀水荘が予約出来た。

二月になって、地区十五社のうち十一社が参加することになっていたが、幸か不幸か、三月初めに伊豆東方沖群発地震が発生した。

大事をとって一社がキャンセルし十社十名が参加希望、旅行会を敢行することになった。

三月十四日(金)——旅行当日になつても地震が完全に休止した訳ではないので、幹事として若干の不安をいだかない事は無かつたが、多くのメンバーが参加を決断されたので予定通り、出発することにした。東京駅発の伊豆急スパー踊り子号はほぼ満席の状態で、地震の不安は完全に吹き飛んだ。

熱海を過ぎて、伊豆には午後三時前に着いたが、地震の中心地なので流石にホームに降りる人影は無く、駅も閑散としていた。目指す伊豆稲取まで、幾つものトンネルを通過して、三時半に到着、駅前には銀水荘のマイクロバスが待っていた。車中では、早速お絞りが渡され、仲々のサービスの良さを感じたものである。運転手氏は「ここ稲取では、地震は殆んど感じませんので、安心してお泊まり下さい」と確信に満ちて我々に挨拶した。

曲りくねった坂道を下って相模湾をのぞむ海辺、正に波打際威風堂々のホテル銀水荘が建っ

ていた。玄関に入るとフロントにはかなり大勢の女性達が縦に並んで我々一行を思いっきりの笑顔で迎える。廊下を行き交う従業員の人達も皆一様に、明るい声で丁寧におじぎをする。「この地震騒動の中、よく来てくれました」との感謝にも似た思が伝ってくるようだ。

各々が部屋に案内され、ともかく一休み、外を眺むればそこには広い海原が雄大に拡がっている。下田方面だろうか沖合には、漁舟らしき影が二つ三つ見える。夜になれば漁火の光が水平線に浮かぶ事だろう。

ベランダより眼下の駐車場の向こうは岩場であるが波が打寄せ飛沫をあげている——雄大な海を見つめていると何となく安らぎに似た気分になるのが妙である。当り前の事であるが、波が打寄せて来る様は本当に不思議なことである。夜も昼も四六時中、常に同じ様に波がよせて来る。この自然界の不思議な営みに見とれて暫しぼんやりとした時を過した。海に向うで誰が海原を掻き回しているのか……

夕餉の宴までは十分に時間がある。同室のメンバーは一先ず湯に浸つて来ようと、浴衣に着替えて室を出て行った。こちらは、まだベランダに行んで波を見つめていた。何があつても同じ様に波が寄せては返して行く。それに引換え我が事業はどうか、仲間同じリズムでは発展しない——バブルの絶頂期には次から次と出て来る仕事に汗を流し喜んでいたが、この三、四年來、うその様に仕事が毎年減つて行く。どの所先輩も、「良くないねえ!」「こう暇じゃあど

うしようもないねえ」との言が毎回の挨拶ではある。時代の流れが変わってきたと云えば、その通りだ、しかしこれからどうするのか——誰も名案はない。じつと耐えて、景氣の回復を待つしかないのか。D・T・P とうの電子化戦略を取入れて、プリプレスの段階での利益をどうしたら印刷業者として取り込むのか、コンピュータの世界は連続投資が付纏うと云う——打ち寄せる波を眺めながらあれこれと考えていた。

事業は人なり、結局のところ大事な根本は経営者の氣魄、やる気ではないか、見れば、このホテルもかなり豪華な建築である。かなりの資金を投入しているのだろうと思う。そこへ、波のように毎日客が押し寄せて来る様にこなればならない。大変な氣力と努力が必要なのだろうと思つた。

机の上に一冊の単行本が置かれていた。若干目を通してみると、ここ銀水荘の成り立ちを書いている。二代目の女将、現在の女将加藤悦子さんの一代記である。昭和四年四月四日生れで、昭和二十四年に嫁いで来た時は金鶏館と云う半農、半漁を兼ねた割烹旅館にすぎなかつたが、文字通り、嫁として妻として、また母として町会の婦人部として懸命に働いて、昭和三十三年三月、木造二階建十三室六十人収納の銀水荘を建てた。昭和三十五年、伊豆急が下田まで開通、努力の甲斐あって温泉も出て、稲取地域も活気づいて来た。「磯料理と心くばり」の二本柱を旅館経営の主眼において頑張った。昭和

四十年、株式会社ホテル銀水荘として三百人収容の新しい牙城をこの海岸線に建設し発展して行ったと云う。平成二年度全国旅館百選に総合三位として選ばれたと記されていた。巻末には作家橋田寿賀子女史の一文もあった。初めて銀水荘へ泊った折の心配りの暖かさに感激したとの讃辞が送られていた。

この本を読んでいるとサービス係のお姉さんが来て、「良ろしければお客様のお靴下をお預かりしたい、明朝御出立まで、クリーニングをしてお返しします」と云う。筆者にとっては初めて聞くサービスであった。

人間社会では確かに気がばりが大切である、それも相手の身になっての心遣いが大切であろう。これ見よがしの好意ぶった、押つけがましいものではなく、誠意ある心のあり様が決め手である。とかく世智辛い世の中で、他人の事なんぞ構ってはいられない。人間誰しも自分が一番可愛いので、つい自分中心の考えや行動となってしまうのが常である。まさに現今の世相は、産業、経済、金融、政治、教育と全ての分野で行き詰っている——あまりにも自分勝手な人間が多くなっている。

さて六時になって宴会を始めた。初めに若干、地区長より組合諸行事等の報告を含めての挨拶があり、乾杯ののち、女将が挨拶に来て、特別のサービスとして、築地からのお客様なので、捕りたての鯉の生き造りが出された。

ビールで喉を潤し歓談した。築地地区の古参のメンバー、山之内印刷さんの布施氏が、今月



で職を辞するので、組合の皆さんともお別れですとの発言があった。筆者も地区長になってからお世話になったので、少なからず驚いた。布施さんは終戦後復員され、築地の姉、御夫婦の経営する印刷業界で働いて来られたと伺った。昭和四十年代には地区長や地区幹事を受けられ、わが築地地区にとってその功績少なからぬものがあると思っている。ここでお別れるのは誠に残念ではあるが、御高齢のためなれば仕方がないことである。氏の益々の御健勝と長寿を祈るものである。

宴は布施さんの送別会のような雰囲気になりカラオケも入って大いに盛り上がりを見せた。そ

の中で特別なものは、パンプキンスープに伊勢海老が入った料理は実に絶品なりと感じた。楽しい一夜を過ごすことが出来たと思う。

(築地地区 春原英夫)

書籍紹介

印刷はどこへいくのか

中 西 秀 彦 著

晶文社刊

著者の中西さんは京都で一〇〇年以上続く印刷会社の後継者であり専務取締役で一九五六年生まれの京都大学文学部の卒業である。

まえがきに始まり

1 活字が消えるまで

2 親父の肖像

3 DTPの夢と現実

4 不思議な漢字コード

5 オンデマンド印刷で変わるもの

6 紙のない印刷

7 印刷の未来

巻末対談『本からマルチメディアへ』以上の七項目を書かれている。

二〇年前の印刷の工程は熟練した職人が活字を一本一本拾い手作業で原稿を組み上げる活版印刷であった。しかしこの二〇年でコンピュータによる電算写植、そしてDTPへと目まぐるしく変化してきた。そして今後も必要なとき必要な部数だけ印刷するオンデマンド印刷やC

DIROM、インターネットなど電子出版の荒波が待っている。困難な時代に立ち向かう中小印刷会社の内面を描いた「印刷屋さんが書いた印刷の話」で蓋し名著と思う。お暇なおりは是非一読を。

支部の動き

4月3日(木)本部支部長会(14時～)本部会議室

十文字支部長出席

4月7日(月)部長・監査会(11時～13時30分)

於・支部会議室

。平成8年度事業報告書作成について

4月10日(木)部長・監査・地区長会(11時～13時30分)於・支部会議室

1、支部長会報告事項

2、各種委員会報告事項(出版)

3、今後の支部活動・事業計画について

。平成9年度通常総会・役割について

。支部事業報告の作成、予算案の作成について

。支部「長寿者の集い」役割について

。支部インターネット・ホームページ開設と運営について

。中央区・印刷業DTP化促進セミナーの開催について

。電子化教育研修会について(本・支部主催9月上旬)

。適正利潤確保対策研修会について(6月12日(火))

4、その他の事項

。「京橋の印刷」97号の発行について

。次回、部長・監査・地区長会開催日(5月13日通常総会当日)

。中央区「災害時における支援協定」について

4月23日(水)京青会平成9年度通常総会(18時30分～19時)於・築地スエヒロ別館

十文字支部長出席

5月9日(金)部長・監査・地区長会(11時～13時30分)於・支部会議室

1、今後の支部活動・事業計画について

。平成9年度通常総会開催準備の最終確認について

。本部・適正利潤確保対策研修会について

。中央区・印刷業DTP化促進セミナーについて

。電子化教育研修会について

。支部インターネット・ホームページ開設と運営について

2、その他の事項

。「京橋の印刷」98号の発行について

5月13日(火)京橋支部平成9年度通常総会開催(18時～20時)於・銀座東急ホテル

司 会

永井副支部長

福田副支部長

十文字支部長

。議長および副議長の選出

。義 事

第1号議案 平成8年度事業報告

第2号議案 平成8年度収支決算報告

榎本副支部長

山崎副支部長

平成8年度監査報告

山内・宇津木監査

第3号議案 平成9年度事業計画案

榎本副支部長

第4号議案 平成9年度収支予算案

山崎副支部長

第5号議案 次期役員選考委員の選任について

十文字支部長

その他

議長および副議長の解任

特別委員への感謝状・記念品の贈呈

来賓あいさつ

東印工組副理事長 田島一彌殿

中央区工団連会長 平林智司殿

閉会のことば 山内 監査

懇親会(18時50分～) 青柳副支部長

進行

5月16日(金)中央区と区内印刷・製本業界4団体

との「災害時における応急対策活動支援に

関する協定」締結調印式(9時30分～)於・

中央区役所区長応接室

十文字支部長出席

5月17日(土)京橋製本組合通常総会(14時30分～)

於・箱根・塔ノ沢温泉鶴井の宿「紫雲社」

十文字支部長出席

5月22日(木)本部通常総代会(15時～)於・東京

プリンスホテル

5月23日(金)中央厚生事業協同組合通常総会(18時)於・ロイヤルパークホテル
十文字支部長出席

5月26日(月)臨時部長・監査・地区長会(11時~13時30分)於・支部会議室

。中央区・印刷業DTP化促進セミナーについて

。支部「長寿者の集い」開催について
。本部・適正利潤確保対策研修会開催について

6月3日(火)中央区工団連総会(16時)於・京橋会館「月光の間」

6月5日(木)本部支部長(15時)於・本部会議室 十文字支部長出席

6月12日(木)本部主催利潤確保のための経営革新研修会(18時~20時30分)於・(株)千代田マシナリー9階

講師 東印工組中小企業診断士杉田寿夫氏
6月16日(月)京橋支部「長寿者の集い」開催(12時~14時30分)於・銀座東急ホテル

司 会

。あいさつ 山内 監査
十文字支部長

。来賓祝辞 中央区長 矢田 美英殿

。来賓紹介 工団連会長 平林 智司殿

。来賓紹介 中厚毒薬協組理事長 川崎 哲雄殿

。来賓紹介 中央区商工課長 齋藤 裕文殿

。長寿者代表あいさつ

京橋支部顧問 石澤 幸殿

。乾 杯 小林 晃殿

。歓談・余興

。万歳三唱 永井 直保殿

6月17日(火)中央区・印刷業DTP化促進セミナー、(A)コース(経営者向け)(18時~20時30分)於・中央区役所8階大会議室

6月24日(火)中央区・印刷業DTP化促進セミナー、(B)コース(営業マン向け)第1講座(18時~20時30分)

於・中央区役所8階大会議室

6月26日(木)中央区・印刷業DTP化促進セミナー、(B)コース(営業マン向け)第2講座(18時~20時30分)

於・中央区役所8階大会議室

6月30日(月)中央区・印刷業DTP化促進セミナー、(C)コース(営業マン向け)第1講座(18時~20時30分)

於・中央区役所8階大会議室

7月2日(水)中央区・印刷業DTP化促進セミナー、(C)コース(営業マン向け)第2講座(18時~20時30分)

於・中央区役所8階大会議室

7月5日(土)中央区・印刷業DTP化促進セミナー、(C)コース(実務者向け)第1講座(10時~17時)

於・(株)日本印刷技術協会DTPルーム

7月9日(水)部長・監査・地区長会(11時~13時30分)於・支部会議室

1、支部長会報告事項

2、各種委員会報告事項(厚生、総務、資材、環境、小企業、構改善、出版、労務、事務用)

3、中央区・印刷業DTP化促進セミナーに

ついて

4、本部・電子化教育研修会について

5、その他の事項
。「京橋の印刷」98号の発行について

。支部・永年勤続従業員表彰式の開催について

。10年度通常総会の開催日について

7月19日(土)中央区・印刷業DTP化促進セミナー、(D)コース(実務者向け)(ロ)グループ(10時~17時)

於・(株)日本印刷技術協会DTPルーム

社 名 変 更
・シンコー(株)(旧名東京真宏印刷(株)) 湊地区

お悔やみ申し上げます

▼湊地区、(株)興文堂社長御母堂、寺町幸子殿 御逝去(5月)

▼築地地区、(株)典文社社長、土井明殿御逝去(5月)

編 集 後 記

5月の通常総会も盛会裡に終り、総会明けからは電子化促進のための各種セミナーが矢継ぎ早に行われております。

さて、「京橋の印刷」も今号で98号となり、記念すべき100号が迫ってきました。100号の編集企画は今のところ全くの白紙ですが、この機会に皆様からアイデア、ご意見をお寄せいただき

度くお待ち申し上げます。(横田)